

土門拳のまなざしを受け継ぐ2つの受賞作品 —同時開催

RESISTANCE

カンボジア
屈せざる人々の願い



—— 高橋智史

「私は権力の横暴には絶対に屈しない。子どもたち、強く生きなさい」 控訴裁判を終え、刑務所に連れ戻されようとするテップ・パニー氏は、そのように叫び、フン・セン政権に対して断固たる意志を示した 2017年2月15日、プノンペン

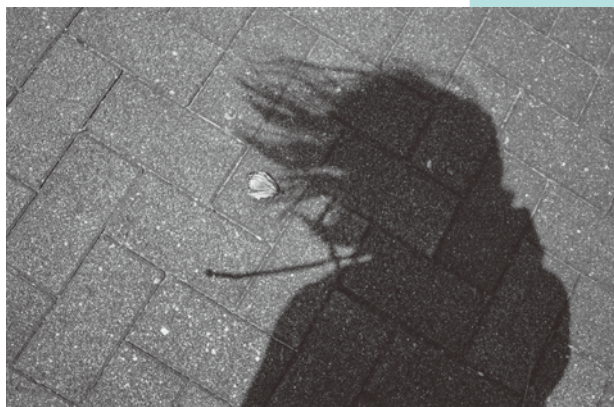
第38回 土門拳賞受賞作品展

第25回 酒田市土門拳 文化賞受賞作品展

9/27
▶11/10

糸遊 ~ GOSSAMER

—— 上瀧由布子



※奨励賞3作品はアルバム(一部額装)展示



室生寺弥勒堂釈迦如来坐像左半面相

生誕110年
土門拳 古寺巡礼
名作セレクション

イベント

土門拳賞受賞作家 高橋智史氏ギャラリートーク
10月12日(土)午後2時~ **参加無料(要入館料)**

第14回「わたしのこの一枚」写真展
11月12日(火)~12月1日(日)

ミュージアムコンサート 午後4時~ **参加無料(要入館料)**

10月 5日(土)「ヴィブラフォンのあるところ〜古寺巡礼によせて〜」
ヴィブラフォン 會田瑞樹

10月26日(土)「秋に歌う Yamagishi-kei」
クラシックギター yamagishi-kei

2019.9/27日~12/22日

10/1
開館記念日
無料開放

休館日: 11月11日、12月2、9、16日

入館料: 一般430円、高校・大学生210円、中学生以下無料
※10月より一般440円、高校・大学生220円

開館時間: 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

会員券: 随時受付、特典あり(1年間有効)

共催: 酒田市教育委員会

2019.11/12~12/22 日本の古陶磁

※詳しくはHP等でご確認ください

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)

TEL/FAX 0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

第38回 土門拳賞受賞作品展

土門拳賞とは

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年(昭和56年)に毎日新聞社により設立された、日本でも有数の権威ある写真賞です。毎年1月から12月までの間に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が受賞の対象となり、その受賞作品は土門拳記念館にパーマメントコレクションされます。

受賞作は、カンボジアの強権政治に屈することなく闘い続ける人びとに迫ったドキュメンタリー。監視される日常生活、抗議の現場、デモ行進の最前線、自身の安全も顧みず、声を挙げ、祈り、仲間を助け合う市民の姿を追いました。写真は全世界に発信され、知られざるカンボジアの現況と圧政に負けず闘う人びとの姿を世界に伝えています。



「国際女性DAY」の日デモ行進を抑え付ける武装警察と対峙し、異の社会正義の確立を訴える人権・土地問題活動家アート・ソムナン氏
2014年3月6日、プノンペン



数日間の当局による収監から釈放され、権力の横暴に負けまいとする屈せざる意志を表明しながら、収容施設から出てくる女性活動家たち
2014年1月6日、プノンペン



不当な弾圧と闘い続けてきた屈せざる人々たち
2016年3月1日、プノンペン

「土門拳賞受賞のことば」

抑圧と緊張の日々に 高橋智史

初めてカンボジアに降り立った2003年9月末、あの日のことを今もはっきりと覚えている。スコールで冠水したプノンベンの道路には、無数のバイクやトゥクトゥクが水しぶきをあげて勢よく行き交い、子どもたちはその脇で無邪気に水遊びをしていた。生活に密着している市場やひしめく屋台からは、各種クメール料理が混然一体となって香りたち、夕食の食材を買い求める人々に溢れていた。活気に満ちた夕暮れの街に人々の生きる躍動が強烈に映え、幾度もシャッターを切った。その陰では、地雷で手足を失った戦傷者やストリートチルドレンが、国家の悲劇の歴史を背負いながら静かに生きていた。届かぬ彼らの願いを伝えたいと決意し、大学卒業後、すぐに移り住んだ。

あれから15年が経ち、政治亡命者さえも生み出す状況となってしまったこの数年間のカンボジアでの取材は、正に激動の時間だった。33年間の強権支配を築く政権の横暴に、異を唱える最大野党が解党させられ、主要英字紙は廃刊に追い込まれ、政治評論家が暗殺され、ジャーナリストや活動家、そして市民が次々と投獄される。その結末は、対抗勢力を社会から一掃して断行された総選挙での、新たな一党独裁の幕開けだった。

息の詰まるような抑圧と緊張の日々はボル・ポト政権、内戦後、困難の中で懸命に積み重ねてきたはずの民主が破壊されていく様を、一つ一つ見せつけられるような時間だった。これからカンボジアは、どこに向かうのか。

光栄なる受賞を励みに、これからも全力で彼らの願いを写真に宿し、伝え続けていきたい。

高橋智史 たかはし・さとし



1981年秋田県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。2003年からカンボジアを中心に内戦後のアフガニスタン、スマトラ沖大地震などを取材。07年からプノンペンに居住。主に同国の人権問題に焦点を当て、カンボジア・デーリー、ガーディアン、CNBCなどのメディアに報道写真を発表。写真集に「湖上の命—カンボジア・トンレサップの人々」(13年・窓社)、「素顔のカンボジア」(14年・秋田魁新報社)、「RESISTANCE カンボジア 屈せざる人々の願い」(18年・同)。写真展多数。06、11年上野彦馬賞入賞、13、14年国際ジャーナリスト連盟(IFJ)日本賞入賞、14年名取洋之助写真賞、16年三木淳賞奨励賞受賞。

第25回 酒田市 土門拳文化賞受賞作品展

酒田市土門拳文化賞とは

昭和を代表する写真家である土門拳は、戦前・戦後を通じ、この国の写真界に多大な功績を残しました。酒田市では、1994年(平成6年)の土門拳記念館開館10周年を機に、写真文化、写真芸術の振興および奨励に寄与することを目的として、このアマチュア対象の文化賞を創設しました。

今回の公募には全国の137人から143テーマの作品が寄せられました。第25回の受賞作品には「“生きて在る”とはどういうことなのか」をテーマに日常を撮った作品、上瀧由布子氏の「糸遊〜 GOSSAMER」が選ばれました。



1

2

3

4

1. 文化賞: 上瀧由布子「糸遊〜GOSSAMER」
2. 奨励賞: 菅野千代子「二つの祖国」
3. 奨励賞: 寺本雅彦「墓場から揺り籠まで」
4. 奨励賞: 新海裕幸「また一つ時を刻んで」

生誕110年 土門拳古寺巡礼名作セレクション

土門拳のライフワーク「古寺巡礼」は、1963年から足掛け12年の歳月をかけて全5集にまとめられました。全5集の収載作品全787点の中から、珠玉の64点を迫力の大型作品でご覧いただけます。



1

2

3

1. 中宮寺観音菩薩半跏像
2. 三十三間堂内陣雷神神像全身
3. 飛鳥寺金堂釈迦如来坐像面相詳細

2019.11/12~12/22
日本の古陶磁

青手椿図の大皿



土門拳記念館展示情報 2019

2019年9月27日(金)～12月22日(日)

休館日:11月11日(月)、12月の毎週月曜日

主要展示室

生誕110年 土門拳 古寺巡礼名作セレクション

カラー 64点

土門拳のライフワーク「古寺巡礼」は、1963年から足掛け12年の歳月をかけて全5集にまとめられました。全5集の収載作品787点の中から、珠玉の64点を迫力の大型作品でご覧いただけます。

企画展示室Ⅰ

第38回土門拳賞受賞作品展

高橋智史「RESISTANCE カンボジア 屈せざる人々の願い」

カラー 50点

第38回の受賞作は、カンボジアの強権政治に屈することなく闘い続ける人びとに迫ったドキュメンタリー。監視される日常生活、抗議の現場、デモ行進の最前線で、自身の安全も顧みず、声を挙げ、祈り、仲間を助け合う市民の姿を追っています。写真は全世界に発信され、知られざるカンボジアの現況と圧政に負けず闘う人びとの姿を世界に伝えました。

＜土門拳賞受賞作家 高橋智史氏（秋田出身）ギャラリートーク＞

10月12日(土) 14時～ 参加無料（要入館料）

企画展示室Ⅱ

第25回酒田市土門拳文化賞受賞作品展

上瀧由布子「糸遊～GOSSAMER」

※11/10(日)まで

モノクロ 30枚組

酒田市では1994年の土門拳記念館開館10周年を機に、写真文化、写真芸術の振興および奨励に寄与することを目的としてこの文化賞を創設しました。今回の公募には全国の137人から143テーマの作品が寄せられました。第25回の受賞作品には、「生きて在る」とはどういうことなのか」をテーマに日常を撮った上瀧由布子氏の「糸遊～GOSSAMER」が選ばれました。また、以下3名の奨励賞受賞作品もアルバム（一部額装）で展示します。

管野千代子「二つの祖国」（カラー30枚組）

寺本雅彦「墓場から揺り籠まで」（モノクロ30枚組）

新海裕幸「また一つ時を刻んで」（カラー30枚組）

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地（飯森山公園内）

TEL/FAX: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>